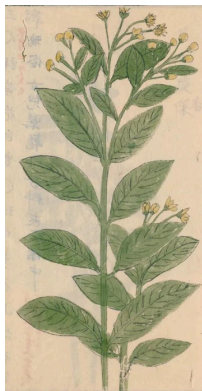


Q. ヤマクニブーという植物について知りたい。

**A.**「ヤマクニブー」とは、サクラソウ科の多年草であるモロコシソウ（唐土草）の方言名です。別名をヤマクネンボ（山九年母）といい、学名はLysimachia sikokiana Miq. です。地域によって、頭頭ではアングダグサ、アングダグスイ、カバサンギー、ヤマクネーブ、宮古ではニフニスイ、石垣ではマンツア、西表ではマンサンなどと呼ばれています。なお、「唐土草」という名称は、かつてこの草が誤って中国から渡来したと考えられていたことに由来するとされています。また、「山九年母」は、山地に生育し、その香りが柑橘類の九年母に似ていることから付けられた名称です。

関東以南から小笠原諸島、沖縄に分布する日本の固有種で、低地や山地の林野に生育します。高さは50cmほどに達し、初夏には直径1cmほどの黄色い花が咲き、6mmほどの実をつけます。

ヤマクニブーは乾燥させることで、独特の香りを放ちますが、蒸してから乾燥させると、より香りが強くなります。その香りはカレー粉のようなスパイシーな香りにも例えられます。ヤマクニブーの名前は知らなくても、「おばあちゃんの家の匂い」と言われると、思い当たる人も多いのではないでしょうか。沖縄では古くから、この香りを生かし、筆筒に入れて衣類の防虫や香り付け、室内に吊るして蚊よけにするなど、暮らしの中で重宝されてきました。



「零陵香 園葉」（部分）  
国立国会図書館白井文庫所蔵『琉球産物志』写本  
国立国会図書館デジタルコレクション

江戸時代の医師・本草学者の田村藍水が、1770（明和7）年に著した『琉球産物志』には、「零陵香」という植物が2種類掲載されていますが、その中の一つ「零陵香 園葉」の説明には「琉球土名山胡椒草」と記されています。また、国立国会図書館白井文庫に所蔵される、植物学者白井光太郎の写本（1911年写）には、儒者・本草学者であった栗田万次郎による「琉俗 女児曝乾作香料夾衣襟中」という補筆があり、当時の女性が乾燥したヤマクニブーを襟に縫い込んで香りを楽しんだ様子がうかがえます。ちなみにもう一つは「零陵香 長葉 大島産」で、説明には「大島土名毛呂志」と記されています。

近年の研究により、ヤマクニブーに含まれる成分のジアセチルやジヒドロピランが、虫除けに効果があることが分かっています。また、蒸す際にアミノ酸や糖を加えることで、甘いチョコレートや花のような香りを生み出せることから、伝統的な利用方法に加えポプリやコサージュ、ドライフラワーなどの材料としても注目されています。

ヤマクニブーの収穫と加工は、6月の終わりの頃、梅雨が明けて夏至南風\*が吹く時期に、約3週間という短い間で行われます。この時期に花を咲かせて実をつけたヤマクニブーが、最も香りが強くなるためです。そのため、ヤマクニブーが店頭に並ぶのは、梅雨明け後の限られた期間になります。県内では本部町伊豆味で生産・加工されていますが、近年は生産者の高齢化による後継者不足もあり、出荷量は減少しているようです。

さて、ここまで書くと、どうしてもヤマクニブーの香りを嗅いでみたくなった筆者は、市場などを訪ね歩きましたが、季節外れのため見つけることはできませんでした。ところが、たまたま訪れたマチグー近くの食堂に吊るされているのを発見し、独特の香りを体験することができました。その香りは、確かにカレー粉のようでもあり……。梅雨が明けたころ、嗅覚を研ぎ澄ませながら市場周辺を歩いてみると、思いがけない香りとの出会いがあるかもしれません。（宮良） \* 梅雨明け（平成6月22日頃）から6月末まで吹き続く南～南西の安定したやや強い季節風。

参考文献

『亜熱帯資源を活用した複合産業の創出可能性調査報告書』南西地域産業活性化センター 2000年  
『沖縄大百科事典』上巻 沖縄大百科事典刊行事務局編 沖縄タイムス社 1983年  
『沖縄タイムス』1998年6月26日夕刊5面  
『新図解牧野日本植物図鑑』牧野富太郎原著 邑田仁編集 北隆館 2024年  
『南ぬ風』Vol.47（2018.4～6）沖縄美ら島財団 2018年  
『琉球新報』2019年7月14日朝刊26面  
『琉球列島植物方言集』天野秋夫著 新星図書出版 1979年

史料

田村藍水「琉球産物志」（安田健編『江戸後期諸国産物帳集成』第XVIII巻 科学書院 2004年所収 東京国立博物館蔵写本）※東京国立博物館デジタルライブラリーで閲覧可。  
田村藍水「琉球産物志」（国立国会図書館古典籍資料室白井文庫蔵 白井光太郎氏写本）※国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可。

利用案内

開館時間 9：00～20：00

休館日 火曜日・年末年始・特別整理期間

※図書館専用の駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください

- 館内への食べ物の持ち込みはご遠慮ください  
飲み物は、密閉できる容器であればお持ち込みいただけます  
※5階郷土資料室は完全飲食禁止です
- 携帯電話などの通信機器はマナーモードに設定してください  
お電話は4階・5階の電話ボックスをご利用ください
- 館内には撮影禁止です。撮影には別途申請が必要です

図書館カレンダー 2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

■は休館日です



沖縄県立図書館  
公式ホームページ  
QRコード

賑わう街から少し離れて、図書館でひと休み🍵

プロ野球キャンプの活気と寒緋桜に、春の訪れを感じる季節となりました。節分やバレンタインなど行事も多い2月、外の賑やかさから少し離れて、図書館で好奇心を刺激する本との出会いを楽しんでみませんか。皆様のご来館をお待ちしております。

お知らせ

遠隔地貸出サービスはじまりました！

県立図書館の資料をWEB・電話で予約し、お近くの市町村立図書館（試行館：うるま市立中央図書館、恩納村文化情報センター、与那原町立図書館）で受け取れる便利なサービスです。県立図書館の豊富な蔵書が身近になります。忙しい方も、遠方の方も、ぜひご利用ください！

予約かご

本をweb予約する際に受取館が増えています。

該当件数は7件です。

予約受取館	県立
予約連絡方法	県立
	うるま市立中央図書館
	恩納村文化情報センター
	与那原町立図書館

全選択 全解除

本が準備できたら

予約時に指定した方法（メール、電話）で県立図書館から連絡がきます。  
※本を借りるまで、県立図書館から届いた予約準備完了メールは削除しないようにしてください。

受け取り方法

「県立図書館の利用カード」を持って受取館で本を受け取ります。  
置き置き期限は5日間、貸出期間は14日で貸出延長も可能です。

遠隔地貸出を利用できない方

- ・県立図書館の本を弁償中・長期未返却資料（1週間以上の延滞）があるなど、図書館の利用が一時的に制限されている方。

サービス詳細は  
県立図書館HPへ



沖縄県立図書館 図書館セミナー

イベント 与那原恵氏講演会「100年前の琉球芸術展覧会」

申し込み不要

令和6年度に財団法人啓明会の関連文書類をご寄贈くださったノンフィクション作家の与那原恵氏をお招きします。世界初の沖縄の文化・芸術を紹介する展覧会となった大正14年の「琉球芸術展覧会」開催の背景や、啓明会と沖縄研究とのかかわりについてお話しいただきます。

期 日：2026年2月22日（日）  
時 間：15：00～17：00  
場 所：沖縄県立図書館 3Fホール  
講 師：与那原 恵（よなはら けい）氏  
受講料：無料  
定 員：80名（先着順）

新収蔵資料展（2/11～3/16）で、  
啓明会関連資料の展示もありますぞ



